

Like 0

ツイート

0



週刊ヤマケイニュース



日本山岳写真協会東海支部5人のグループ展「山、きらめきのPhoto展」

9月6日～17日、名古屋にて開催



「染まる氷稜」（撮影者＝大島隆義）



「白馬盛夏」（撮影者＝山田育子）

日本山岳写真協会（JAPA）東海支部5人のグループ展「山、きらめきのPhoto展」が9月6日から17日まで名古屋で開催されます。今回で4回目の開催となるこの企画では、5人それぞれの山への思い、見かた、感じかたが引き出せるようにテーマは各々で決め、展示方法も自由、と各々の個性が出る50～70の作品が並ぶ予定です。

会場は名古屋市有形文化財景観重要建造物である撞木館（しゅもくかん）。大正時代に建てられた建築物で、当時のままの空間で和室2部屋と蔵を展示会場とし、ひときわ違ったギャラリーの雰囲気味わえます。

「山、きらめきのPhoto展」

日程：9月6日（水）～17日（日）

出展者：大島隆義、久野巖、丹羽明仁、堀秀夫、山田育子（50音順）

会場：文化のみち撞木館

名古屋市東区撞木町2-18

月曜休館

地下鉄桜通線「高岳」下車、1番出口より北に徒歩10分

入場無料（要入館料200円）

<http://www.shumokukan.city.nagoya.jp/>

※9月16日（土）14:00から、出展者のひとり、山田育子さんが作品の説明や山岳への思いを語るギャラリートークがあります。



週刊ヤマケイニュース



生物図鑑の読み放題サイト「図鑑.jp」に3冊の図鑑が追加！

植物コースは全15冊、野鳥コースは全10冊に

図鑑.jpは、山と溪谷社が運営する年会費制の生物図鑑の読み放題サイトです。現在は「植物」と「野鳥」の2ジャンルを展開中です。植物コースは、山と溪谷社のハンディ図鑑シリーズをはじめ、文一総合出版、全国農村教育協会、神奈川県立生命の星・地球博物館の3社1機関の全14冊（総ページ数7896ページ）、野鳥コースは文一総合出版、平凡社、山と溪谷社の3社、全8冊（総ページ数3112ページ）の図鑑がそれぞれ読み放題となっています。和名、学名、科名を入力すると、複数図鑑を横断検索することができ、通信回線が必要ですが、スマートフォンやタブレットで野外での閲覧も可能です。



『山と溪谷』9月号/8月12日発売/952円+税/A4変形判/216ページ/綴じ込み付録：コツが身につく！地図読みドリル2017

山がもっと楽しくなる！

今月号の特集は「実践 地図読み講座」。計画編、現場編、デジタル機器活用編の3部構成で、地図読みの楽しさを紹介。特に「ハイキングで身につく読図術！」は事前準備の不可欠さと、現場での判断の肝が具体的な例とともに、わかりやすく解説されています。

また「-その先の世界へ-秩父敷尾根単独行」では、『秩父敷尾根単独行』『続・秩父敷尾根単独行』の著者である坂井勝生さんの山行に、編集部員が同行。行く先は秩父の品蒔（しなしゅう）。坂井さんは2017年5月25日配信の週刊ヤマケイインタビューで「読図特集を繰り返し読もうが、講習会に参加しようが、それらは所詮“量の上の水練”——読図がうまくなるには登山道を使わない山歩き、敷尾根歩きを実践する以外に方法はありません」と語ってくれました。「ひと気のない静かな山を、自分の力で、自分の判断によって、自由に歩く」という山登りの原点である楽しさをぜひこの企画から吸収し、自分のものとしてください。

第2特集は「歴史と自然に親しむロングトレイルへ」。また週刊ヤマケイでもおなじみの登山ガイド・木元康晴さんと、山岳ライターの小林千穂さんによるマナスル西面の展望トレッキングコースルボも必見。ヒマラヤ山脈のまっただなかに広がる神秘の湖と、マナスルの壮大な姿は必見です！

(文=佐々木 悠/週刊ヤマケイ編集部)

『山と溪谷』2017年9月号

<https://www.yamakei.co.jp/products/2817900989.html>



週刊ヤマケイ

登山地情報



道央・樽前山

キリギリスやセミの鳴き声が響く登山道

花は、渓谷沿いのコースだけにタマアジサイが多く、球形のツボミから花が咲き始めているところ。9月のなかばごろまで楽しめると思います。ほかにもクサギ、ヤブミョウガなどが咲いていましたが、里道で見たピンクのナツズイセンの花が印象的でした。

平日でもあり、歩いている人は少なかったのですが、鳩ノ巣渓谷の下流ではバーベキューに興じる学生がにぎやかでした。また、水着で鳩ノ巣渓谷の淵を泳いでいる人がいたのにはびっくりしました。ダイナミックな鳩ノ巣渓谷の渓流と対照的に、白丸湖はほとんど波もなく、穏やかなエメラルドグリーンの水面に木立が影を落とし、東山魁夷画伯の「白い馬」を思い出したりしました。

今回はじめて知ったのですが、白丸ダムの白丸発電所は東京都交通局の管理。もともと河川機能維持と観光目的で放流されていた白丸ダムの放流水を活用するため建設されたのだそうで、湖畔の遊歩道も東京都交通局の巡視路になっていました。今回は寄りませんでした。ダム魚道入口では今年の4月からダムカードを作成、配布しているとのこと。

数馬峡橋で多摩川を渡り、すぐ上にある白丸駅から帰路につきましたが、さらに上流へ歩き、奥多摩湖へ出れば、日帰り温泉館もえぎの湯で汗を流すこともできます。

(文=石丸哲也/山岳ライター)

参考Web

奥多摩観光協会

<http://www.okutama.gr.jp/>



週刊ヤマケイ

登山地情報



箱根・明神ヶ岳

尾根道に咲くヤマユリの花と富士山



稜線沿いに咲くヤマユリの花 (写真=小瀬村 茂)



明神ヶ岳山頂部からの富士山展望（写真=小瀬村 茂）

8月5日、晴れのち曇り

「箱根の山は天下の嶮」と箱根八里では歌われていますが、明神ヶ岳は箱根山の外輪山のひとつで、穏やかな山容が続く爽快な稜線歩きができます。山頂からは眼下に広がる箱根の町と噴煙を上げる大涌谷、そして、金時山越しに富士山の展望が開け、まさに天下一の景観です。

7月下旬になると夏草に混じって清楚な白いヤマユリが咲きます。今回はそのユリの花を目当てに、箱根山ハイキングで大雄山最乗寺から登りました。

寺の山門脇から明神ヶ岳へ向かう登山道が始まり、山頂まで2時間30分程のコースです。登山途中にある「神明水」の水場付近にあるユリの群落は、すでに盛りを過ぎ花びらを散らしていました。その先に明神ヶ岳と明星ヶ岳への分岐があり、それを右に急坂を登りきると明神ヶ岳直下の稜線に出ます。箱根の山々の視界がいきに開け、山頂に立てば残雪をわずかつけた富士山や金太郎伝説で有名な金時山へ続く尾根道が目に入ってきます。

付近にはいくつものヤマユリが点在し、ここでも一部の花は散り始めていました。ツボミが残る群落を見つけ、霧が晴れるのを待って写真に収めました。

（文=小瀬村茂/山岳写真工房）

参考書籍

分県登山ガイド『神奈川県』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2815020430.html> (紙版)

<https://www.yamakei.co.jp/products/2816120413.html> (電子書籍版)



週刊ヤマケイ

登山地情報



霧ヶ峰・車山

夏休みの家族連れには最適でしょう

週刊ヤマケイ

通巻256号 2017年8月10日号

カバー写真 = 槍ヶ岳山頂より、穂高連峰に掛かる滝雲

撮影 = 原 誠一

株式会社山と溪谷社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地

編集

佐々木 惣

アートディレクター

松澤政昭

SSデザイン

塚本由紀(T&Co.)

技術サポート

福浦一広、金沢克彦

プロデューサー

秋原浩司

©2017 All rights reserved. Yama-Kei Publishers Co., Ltd.